

## 元テレビ局アナウンサー岡本 栄市長が語る ～伊賀のとおき話～思いの伝え方

開催日：2013.10.8

場 所：上野商工会議所 コミュニティ情報プラザ

講 師：伊賀市長 岡本 栄氏



### 伊賀のとおき話…

#### その壱

能楽、観世流の創始者観阿弥、幼名観世丸、通称観世三郎。本名清次（きよつぐ）は、伊賀市守田町で出生。

平家の流れを汲む服部元成の三男と言われている（子の世阿弥も先祖が服部氏と語っている）。母親は楠木正成の妹とされ、足利の治世なので、ずっと本名を隠していたという。

また、観阿弥・世阿弥の親子に、『忍者』の血が流れていたのではないか、という説もある。

#### その弐

現在の大阪造幣局は、江戸時代藤堂藩の大坂蔵屋敷跡地で、通り抜きの桜は、藩邸から見える桜ノ宮の桜風景を藩主がご覧になり藩邸にも桜の植林をと、伊賀市寺町の服部庄左エ門氏が植えたものである。その桜を明治維新以降大阪造幣局が管理し、今日まで引き継がれ、大阪の春の風物詩になる『大阪造幣局通り抜け』の桜となっている。

また、藤堂藩大坂蔵屋敷があった場所（大阪市北区の造幣局）に建っていた商売繁盛の神様を、明治維新に伴い伊賀に持って帰り、現在、伊賀市中町にある『万吉稲荷』として祀られている。

#### その参

藤堂藩江戸中屋敷（台東区上野）現在のの上野動物園の園内にあった。

江戸時代初期には、忍ヶ丘（しのぶがおか）と呼ばれていたのですが、高虎公が、領地の伊賀上野に地形が似ていることから「上野」と呼ぶことにしたという説があり、高虎公のお墓が園内にある。

### おもてなし…

#### その壱

『客の心を察しての行動をすばやく

心のこもった一言をプラスして』を実践すること

#### その弐

方言はその土地の文化の象徴であり、方言を話すことで、温かき・親しみ易さがあり、気持ちが伝わりやすい場合が多い。

物事を伝えることは形ではなく気持ちである。